

■ 全体講評

午後 I 記述式問題では、基準の点数以上を得点した受講生が多いことを根拠に、学習が予定どおりの進捗である受講生が多いと判断します。

問 1 は、計算問題における条件の見落としが多かったようです。選択率と正答率は低い状況です。

問 2 は、選択率の高い問題でした。高得点者と低得点者に明確な差が生じるという状況です。

問 3 は平成 19 年秋のアプリケーションエンジニア試験の本試験問題を一部改善したものです。選択率の高い問題です。正答率は中程度です。

問 4 は組込みシステム分野からの出題です。本試験では、比較的難易度の低い問題が出題される傾向がありますが、今後難易度が上昇する余地があるので、本試験で選択するには注意が必要です。選択率は低く、正答率は中程度です。

採点して気付いた点を次に説明します。

(1) キーワードやキーセンテンスを意識して解答を書く

本試験では複数の採点者が午後 I を採点します。その場合、採点基準が作成されますが、公平に採点するために、キーワードを含むか否かで採点するケースが多いと考えるのが妥当でしょう。その結果、内容が合っても得点できない解答もあります。解答に盛り込むキーワードを意識して解答を書くようにしましょう。

なお、各問題の設問のキーワードについて留意するものがある場合は、講評や採点基準に明記しています。

(2) 設問の条件を満足する解答を導く

設問の条件を満足しない解答は部分点もないと考えてください。特に「～の観点から」は注意しましょう。

(3) 問題文にある漢字を間違った字で解答欄に書かない 論述式問題でも同じです。

(4) 略字を書かない

年に 1 度の試験です。慎重に解答を書くようにしてください。門構えなどを略さないようにしましょう。

(5) 問題を適切に選択する

選択の漏れ、点数記入欄に○を記入している解答者がいます。選択漏れ、選択方法に誤りがないように、しっかりと問題冊子をチェックしましょう。

「解答へのキーワードの盛り込み」の重要性を実感してもらうために、採点基準を厳しく設定して採点しています。概ね内容が正解例と合っているのに得点できていない解答については、採点基準と解答を照らし合わせて改善点を確認してください。

次に午後 I 記述式問題の各問についての講評、設問を絞り込んだ講評、及び採点基準について説明します。

問 1 Web 受注システムの基盤設計

【講評】

自分の書いた解答の趣旨が正解と合っているにもかかわらず、得点できていないことがあります。そのようなケースを回避するためには、書こうとする解答に関連するキーワードやキーセンテンスが、問題文に使われていないかを確認することが重要です。もし、問題文に関連するキーワードやキーセンテンスがあれば、問題文にあるキーワードやキーセンテンスを使って解答を作成します。

例えば〔設問 3〕(1)では、〔可用性要件〕に「2 台以上用意する冗長構成を採用」と記述していることから、「可用性要件の満足」という解答を導きます。また、〔設問 3〕(2)では、〔可用性要件の見極め〕にある「運用性を向上させるためにサーバ数を減らしてほしい」という記述から「運用性が向上する」という解答を導きます。

〔設問 4〕(1)では、〔ハードウェア構成方針〕の(6)の「システムの限界と達成した性能要件との間に余裕がある」という記述がヒントになります。

【採点基準】

〔設問 1〕

解答例と同じを各 5 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 2〕

解答例と同じを各 4 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 3〕

(1)「可用性要件」を必須とし、解答例と同様の趣旨を 8 点、同様の趣旨ですが「可用性要件」のない解答は 4 点、その他は、基本的に 0 点としました。

(2)「運用性の向上」を必須とし、解答例と同様の趣旨を 8 点、同様の趣旨ですが「運用性の向上」のない解答は 4 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 4〕

(1)「システムの限界」及び「達成した性能要件」と必須とし、解答例と同様の趣旨を 8 点、その他は、基本的に 0

点としました。

(2)解答例と同様の趣旨を 8 点、その他は、基本的に 0 点としました。なお、「8 時間前」という記述がない解答については 4 点としました。

問 2 配送管理システムの設計

【講評】

問題文の展開に沿って解答を導くようにしてください。〔設問 1〕(1)の空欄 b あるいは空欄 c、更に空欄 d では、「配送開始日」が正解になります。表の項目番号⑥の記述から、受付日の翌々日と配送開始日は同じであることが分かります。したがって、空欄 b あるいは空欄 c、加えて空欄 d については、「受付日の翌々日」も解答として導くことができます。しかし、表の項目番号⑥の記述があるので、それ以降の記述は、「配送開始日」を使うとを考えてください。したがって、空欄 a 以外は「受付日の翌々日」を不正解としました。

考えた解答がうまく当てはまらない場合は、解答すべき箇所が間違っていないかと考える方法も効果的です。

〔設問 1〕(3)空欄 f,g は件数、空欄 h,i,j はサイズに関する穴埋めです。これを逆にしてしまい、空欄 f,g はサイズ、空欄 h,i,j は件数に関する穴埋めと考えた解答が多くありました。空欄 f,g の間の記号に等号がない点が、正解を導くポイントになります。このように、「解答すべき箇所を入れ替えたりするとうまく当てはまることはないか」という確認が効果的の場合もあります。

【採点基準】

〔設問 1〕

(1)解答例と同じを 3 点、その他は、基本的に 0 点としました。

(2)解答例と同じを各 3 点、その他は、基本的に 0 点としました。

(3)解答例と同じを各 3 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 2〕

「郵便番号別・配送可能日別業者クラス」を必須とし、解答例と同様の趣旨を 8 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 3〕

(1)解答例と同じを 4 点、その他は、基本的に 0 点としました。

(2)解答例と同じを 4 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 4〕

(1)解答例と同じを 4 点、その他は、基本的に 0 点としました。

問 3 顧客管理支援システムの設計

【講評】

高得点するためには、問題文の粒度に合わせて解答を作成することが重要です。具体的には、〔設問 3〕において、「重点区分と重点区分変更日を更新する」という解答がありました。これでは、粒度が粗すぎて得点できません。なぜならば、〔業務終了後のテーブル更新処理の設計内容〕の(2)の③に「重点区分が“重点”の場合は、該当の顧客付加レコードの重点区分を“通常”とし、重点区分変更日を本日とする更新を行う」と書かれているため、この粒度で解答することが求められているからです。

【採点基準】

〔設問 1〕

解答例と同じを各 3 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 2〕

解答例と同じを 5 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 3〕

解答例と同様の趣旨を 6 点、その他は、基本的に 0 点としました。ただし、「重点区分が“通常”の場合は」のない解答は 3 点としました。

〔設問 4〕

(1) 解答例と同じを各 2 点、その他は、基本的に 0 点としました。

(2) 解答例と同様の趣旨を各 3 点、その他は、基本的に 0 点としました。

〔設問 5〕

解答例と同じを各 3 点、その他は、基本的に 0 点としました。

問 4 ハンディナビゲーションシステムの分析

【講評】

できるだけ、問題文で使われているキーワードを使って解答を作成しましょう。まず、問題文中に、これから作成する解答に必要なキーワードの有無を確認してから解答を作成しましょう。

〔設問 5〕の空欄 e と空欄 f の正答率が低いです。問題文の前半部分である〔製品概要〕の(4)と(5)に、正解となるキーワードが書かれています。したがって、空欄部分とキーワードが書かれている部分が離れていることが正答率の低い原因の一つと考えられます。後半の設問において問題文の前半部分の記述にヒントのある設問構成は、本番試験でも採用されることがあります。最後の設問を解く際には、問題文の前半にヒントがないかという点に留意してみましょう。

【採点基準】

〔設問 1〕

(1) 解答例と同じを各 3 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

(2) 解答例と同様の趣旨を 7 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

〔設問 2〕

解答例と同様の趣旨を 4 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

〔設問 3〕

(1) 解答例と同様の趣旨を 7 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

(2) 解答例と同様の趣旨を 4 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

〔設問 4〕

解答例と同様の趣旨を 7 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

〔設問 5〕

解答例と同じを各 3 点, その他は, 基本的に 0 点としました。

■ 公開模試に向けて

午前 I・II 多肢選択式問題対策では, テキスト学習を併用しながら, 過去問題を中心に勉強し, 情報技術に関する最新動向に関する専門知識を専門雑誌などから吸収するようにしましょう。

午後 I 記述式問題対策では, 去年の本試験問題, システムアーキテクト試験に該当するアプリケーションエンジニア試験の過去問題に加えて, ソフトウェア開発技術者試験や応用情報技術者試験の午後 I の過去問題についても, 演習時間を決めて演習するとよいでしょう。

午後 II 論述式問題対策では, 試験センターが発表した講評を確認すると, 「問題文にあるトピックを引用しただけの論文では合格できない」ことが分かります。問題文にあるトピックを活用することは問題ありません。そこから更に論点を掘り下げるようにしてください。

そのためには, 設問アで述べた内容を踏まえて設問イやウで論旨展開する方法, 工夫や能力のアピール方法をテキストなどで確認して, 論文における実務経験や専門知識の活用方法を身に付けるとよいでしょう。問題によっては, 設問アで対象業務の特徴を明示して, 設問イやウで「～という対象業務の特徴を踏まえて」と書くことで, 論旨展開の一貫性をアピールすることができます。

なお, 質問書も採点対象です。解答用紙の本文の前にある質問書には, 漏れなく答えるようにしてください。

解答用紙に, 設問ア, 設問イ, 設問ウをどこから論述開始するかについて明確な指示があります。試験開始ま

での空き時間に, 問題冊子の注意事項とともに, 解答用紙の各ページの注意事項を確認して論述を開始するようにしましょう。

—以上—